

令和5年度 第1回公立鳥取環境大学教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 令和5年6月21日(水) 10:00～11:45
- 場 所 本部講義棟3階 大会議室(対面+Webexによるオンライン会議)
- 出席者 江崎信芳委員、片木威委員、田中仁成委員、山口武視委員、
小林朋道委員、遠藤由美子委員、吉田高文委員、今井正和委員
[8名/12名]
- 欠席者 足羽英樹委員、宇佐美誠委員、尾室高志委員、矢野委員

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

2 審議事項

(1) 令和4年度年事業に係る業務実績報告について

事務局から、令和4年度年事業に係る業務実績報告について説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

・今後、リカレント教育を取組まれるとのことだが、具体的に取組まれる時期、どのような内容を検討しているのかについて伺いたい。

県内就職率30%に向けた取り組みについて、環境学部の県外出身学生をメインターゲットにというくだりがあるが、具体的に何かあるのか伺いたい。

→来年度に、体系立てて行っていきたい、AI・数理・サイエンスなどを準備中である。

経営学部は、県内出身者が県内に残る傾向が強い。環境学部については、鳥取県という自然の特色に魅力を感じて、全国各地から集まってきている。我々もフィールドワークや農業など自然の魅力を伝える授業に力を入れている。学生がそこに魅力を感じたり、そこで出会った人との繋がりで、県内に残りたいと思っている学生が少なからずいる。数は多くないが、県外から来て県内に残りたいという学生がいる。それを進めていきたい。

・県内就職率30%は、かなり高い数値じゃないのかなと思う。鳥取大学でも県内就職率20%で10年くらいずっと横ばいとなっている。環境大学で30%というと300人で90人、20%で60人、あと30人上げようとするとなかなか難しい数字を挙げていると思う。

県内就職先の具体的な場所がわかれば、教えていただきたい。

起業等についての取組があれば、教えていただきたい。

→後ほど、近況で県内就職先については、説明させていただきたい。

鳥取グリーンベンチャーは、いろんな見方があるというこちらの目的に合った高い評価があるが、ベンチャーに結びつくかというところと学生の経験等により難しい。ただ、就職に向けて新しい視野が広がっている。

県内入学者比率25%を目指しているので、これを実現して県内就職率30%を目指して頑張っていく。

(2) 鳥取県内出身学生緊急支援金支給制度について

事務局から、鳥取県内出身学生緊急支援金支給制度について説明があり、原案について承認された。

(3) 本学大学院への学内進学者向け支援制度について

事務局から、本学大学院への学内進学者向け支援制度について説明があり、原案について承認された。

〈主な意見等〉

・住民票の移動を促すことはしないのか。

→入学者に対して鳥取市から住民票を移動するように説明はしていただいている。今後も継続していきたい。移動しない学生に対してなぜ移動しないのかの把握は、行っていない。

3 協議事項

(1) 学長候補者の資格を有すると認められる者の推薦について

事務局から、学長候補者の資格を有すると認められる者の推薦方法について説明があり、原案について承認された。

4 報告事項

(1) 令和4年度決算について

事務局から、令和4年度決算について報告があった。

(2) 「入学前教育」の実施について

事務局から、「入学前教育」の実施について報告があった。

(3) 環境省「脱炭素先行地域」の選定について

事務局から、環境省「脱炭素先行地域」の選定について報告があった。

(4) 第3期中期目標・中期計画の策定について

事務局から、第3期中期目標・中期計画の策定について報告があった。

(5) 近況報告

事務局から近況について報告があった。

〈主な意見等〉

・コロナがやや収まってきて、リアルな動きが目に見えてきている。一般県民の皆様にも環境大学の活動をどんどんPRしていただきたい。

5 その他

6 閉会